



令和4年度 第8回共同機構研修会

令和4年11月21日(月)

## 保育は深く面白い ～一生懸命生きる子どもと共に～

講師 中西 昌子 京都市教育委員会指導部学校指導課参与

10年間の小学校教師生活の後、「幼稚園の先生になりたい」と幼稚園教諭となりました。その頃の小学校では、幼・保の育ちや学びに関心を持つようとする文化が、あまりなかったように感じます。

幼児教育が理解されないのは発信不足ではないかと考え、周りからの後押しもあり『保育は深く面白い～一生懸命生きる子どもと共に～』を日本教育新聞に連載することになりました。幼児の面白さや有能さ、子どもたちの姿に魅せられて、何を育てておくべきなのかを学び綴ったものです。私のフィールドは、幼稚園や教育委員会ということで、3歳からの幼児期に偏ったお話になってしまいますが、保育する上で大切にしてきたことをお伝えします。

3歳児で入園した子どもたちは、先生との信頼関係を基盤に、主体性を発揮していきます。ゆったりした時間や空間、受け止め見守る保育者の存在が大事ではないでしょうか。好きなことがとことんできて、夢中に遊べる子は夢中に学ぶ子になります。信頼関係の築き方はやり方も時期も違うので、あの手この手で一人一人に寄り添うのが保育の醍醐味であり、まずは気持ちに寄り添い一緒に遊ぼうと思い、3歳児を保育していました。

初めて担任をしたのが、4歳児でした。小学校では『みんな仲良く』と目標を掲げていたのに、『気の合う友達と遊びを楽しむ』というめあてにビックリしました。4歳児の発達を知る中で、自分で気の合う友達を見つける過程を見守り、つなぐことが保育者の大事な役割だと理解しました。喧嘩をしたり、仲良くなったりを繰り返すのが子どもの世界。喧嘩は相手の気持ちを推しはかる良い機会、自分の心の揺れを感じる経験も大切です。忘れることができ、根に持たない、柔軟に立ち上げられる、そんな幼児の時期に、嫌な思いも経験して大きくなってほしいと思うところです。受け止める・つなぐ・向き合う、そんな丁寧な対応が大切ではないかと思えます。

5歳児になると規範意識が飛躍的に伸びると聞きました。確かに、遊びの中でルールを守ろうとしたり、そのルールを自分たちで変えようとする姿も見られます。幼児期の経験により、ルールは守らなくてもはいけないけれど、より楽しく遊ぶため、よりよく暮らすためにはどんなルールが必要なのか、と柔軟に考えられる子どもに育つのではないかと期待します。また、片付けの時間にも、たくさんの学びがあります。自己調整力や公共心…そして、今日の遊びを認め、明日のめあてを共有する大事な時間だと意識してきました。5歳児の遊びや活動の中には、「10の姿」がさまざまに現れます。一人一人を焦点化すると、昨日とは違う今日の育ちが見えてきます。その成長を見逃さず褒めて、達成感や充実感、自信と誇りをつけてあげたいと思っています。主体性を育て、自分で遊びや生活を進められる環境作りが大切です。そして、最大限に子どもの意見を取り入れる気概を持った保育者でありたいと思ってやってきました。子どもたちのこれからの人生の基盤は、幼児期に育ち、そのモデルとなるのは保育者なのです。

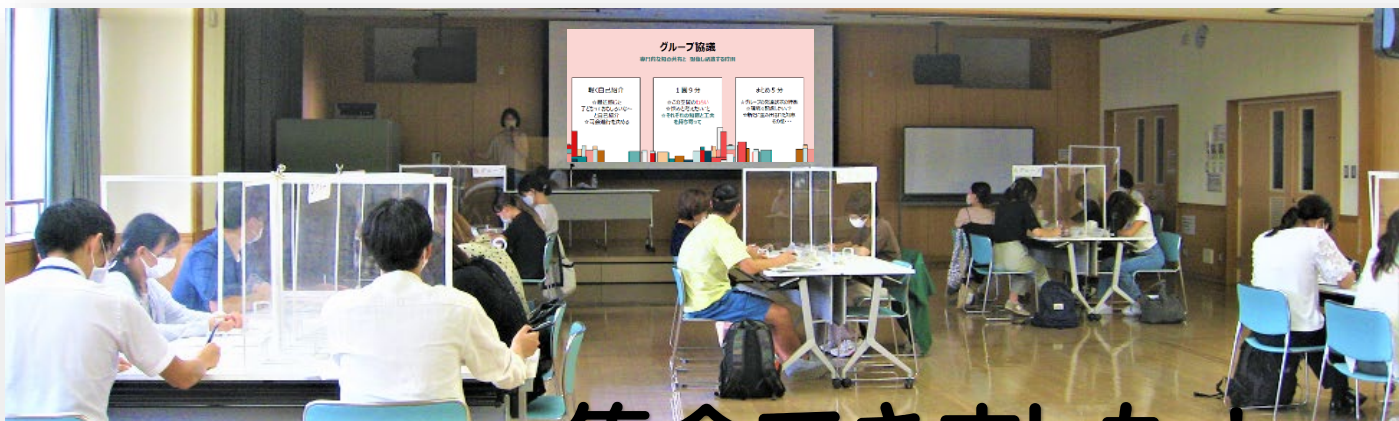
世界的な研究により、よりよい人生を送るためには、社会情動的スキル(非認知能力)が非常に大切であり、社会情動的スキルを身に付けると認知的スキルが伸びるということがわかりました。つまり、乳幼児期の質の高い保育とは、子どもが主体的に環境に関わり、仲間と共に遊びに熱中するよう促す保育であり、その育ちを小学校以上の教育へつなげることが重要だとわかりました。幼保小の接続期を『架け橋期』と名付け、互いの良いところを取り入れ、充実して楽しく安心して学べる環境を作るよう推奨されています。京都市でも令和4年度から取組を進めています。ぜひ、保育の素晴らしさや難しさ、重要性、幼児期の発達などを伝えていきたいと思います。できれば自分たちの保育を見てもらいませんか。小学校の先生方はきっと興味を持ってくださるでしょう。

\*要約は、講義をもとに編集したものです。

DVD貸出中

## 往還型の研修 ～保育環境のアイデアを学び合おう～

講師 古賀 松香 京都教育大学教授



# 集合できました！

園内研修をからめた「往還型の研修」、開始した昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、集合研修の実施がかなわず、文書によるアイデア交換となりました。そこでもたくさんの学びをいただけたのですが、集いたいという思いが残った研修会となりました。今年度は念願かなって、こどもみらい館の研修室に集い、自園（所）の課題や他園（所）の取組について、白熱した語り合いとなりました。保育園（所）・幼稚園・認定こども園、国公私立の先生方が語り合い、学び合える共同機構研修の良さを満喫した研修会でした。

## 古賀先生の言葉が心に響きました！

大人のねらいと子どもの姿との間に生まれる  
ズレはヒント

矛盾する問題がよい塩梅で同居する  
バランスを見出していく

子どもたちが環境の中から  
どのようなメッセージを受取っているのか

整頓されすぎていると楽しくない、片づけながら遊ぶ、  
片づけの意味とは

子どもにとって園生活での遊びがごちそうになるように





# 往還型研修の流れ

## 【事前レポートの作成と共有】

事前レポートを作成することで現在のクラスの検討課題が園（所）内で明確になりました！



事前レポートやグループ討議の中で、普段なかなか知ることのできない、他園（所）の保育環境を見せて頂き、意見交換をする事で、自分にはなかった考えを知ることができ、貴重な場になりました！

第6回共同機構研修会

## 【集合研修 古賀先生の講義とグループ討議】

古賀先生から、具体的な例を挙げながら講義してもらったことで実際の保育現場をイメージしながら聞くことができ、よくわかりました！



自分の園で悩んでいること、困っていることを他園（所）の方々と共有し、またアドバイスをいただけるととても良い研修だと感じました。これほど話が盛り上がるとは予想していなかったので、もっと時間があれば良かったと感じました！

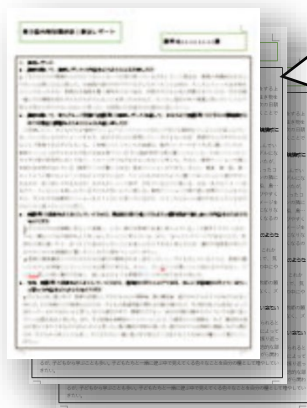
## 【事後レポートの作成と共有】

保育者の役割として、「理解者としての役割」「構成者としての役割」「モデルとしての役割」の大切さを再認識しました。

保育者の意識、ふるまい対応を変えることから始めたいです。

大人の意図ばかりが強くなりすぎないように、意図が伝わりやすい環境、子どもたちが楽しんで挑戦しやすい環境を整えていける保育者でありたいです。

子どもの活動のベースにあるものは、情緒の安定と挑戦であり、まずは子どもが安心して生活できる、遊び込める環境を整えることが大切だと感じました。



研修で学んだことを園で共有したり、取り入れたりすることができ、実際に生かせる研修でした。受け身になって参加するだけで終わらず、自分自身にとってもより深まる研修となりました。参加させていただくことができて良かったです！

# こどもみらい館 第6期研究プロジェクト

今年度、新たにスタートした

こどもみらい館 第6期研究プロジェクトは、

心の育ち

保幼小連携  
・接続

地域連携

を柱に、それぞれの地域で就学前施設と小学校とが  
子どもを真ん中につながることを目指しています。

## それぞれの立場から、子どもを多角的に捉え、理解を深めよう

垣根を超えた大人同士の連携のために、エピソード記述を使って、子どものことをみんなで語り合しましょう。大人同士が知り合うことが、保幼小連携・接続や、今年度より京都市として取り組んでいる『幼保小の架け橋プログラム』の土台となると考えています。

### 動画配信第3弾

## 『架け橋期の教育の充実を求めて ～幼保小接続の重要性を先進取組から学ぶ～』

#### パネリスト

木下 光二

鳴門教育大学大学院教授

佐々木 晃

鳴門教育大学大学院教授

鈴木 登美代

京都市立御所南小学校長

#### コーディネーター

古賀 松香

京都教育大学教授

京都市も  
「幼保小架け橋プログラム  
に関する調査研究事業」  
に取り組んでいます。

令和5年2月16日(木)

～3月6日(月)

動画配信

※ 視聴するには申込が必要です。



子どもを育む喜びを感じ、  
親も育ち学べる取組を進めます。

[京都市はぐくみ憲章]より



この印刷物が  
不要になれば  
「雑がみ」として  
古紙回収等へ！



発行日 令和5年2月10日  
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館  
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1  
Tel : (075)254-5001 Fax : (075)212-9909  
URL : <https://www.kodonomirai.city.kyoto.lg.jp/>